

数量調書
(国見地区)

整地土量計算書

		機械掘削 礫交り土								
測点	単距離	断面	平均断面	立積	断面	平均断面	立積	断面	平均断面	立積
NO. 1	/	0.000	/	/						
NO. 2	3.350	1.106	0.553	1.853						
NO. 3	2.900	0.554	0.830	2.407						
NO. 4	0.230	0.000	0.277	0.064						
			計	4.324						

ステンレス製貯水機能付配水管 (4m³)

基礎数量計算書

基礎版部

現場名 : 国見地区

名称	計算式				数量	単位
(桁等購入費) 貯水機能付給水管 (4.0m3)		本体: φ 2.0m SUS304 球形型	容量:4.0m3	= 1.000	1.0	基
(労務費) 貯水槽設置工		第4類:890kg		= 1.000	1.0	式
基礎コンクリート 24-12-25(20)	基礎版	3.000×3.000×0.500		= 4.500	5.0	m ³
型枠	基礎版	(3.000+3.000)×0.500×2		= 6.000	6.0	m ²
鉄筋 SD345	D16	291.8		= 291.800	0.29	t
	D13	13.0		= 13.000	0.01	t
均しコンクリート 18-8-20	基礎版	3.200×3.200×0.050		= 0.512	0.5	m ³
均しコンクリート型枠	基礎版	(3.200+3.200)×0.050×2		= 0.640	0.6	m ²
基礎材 RC-40 t=150		3.200×3.200		= 10.240	10.0	m ²

水道配水用ポリエチレン管延長集計

対象図面: 廻配管詳細図 1 (流入管)

1) 水道配水用ポリエチレン管布設延長 (φ150)

①直管

	寸法	本数	延長 (m)
水道配水用ポリエチレン管	EF受口付 φ150	2.0	10.000
			4.000
		計	14.000

切断 1.0 口

③異形管 (布設延長に計上)

	形状寸法	寸法	数量	延長 (m)
EF ベント'	両受 φ150×90°	0.660	3.0	1.980
EF ベント'	両受 φ150×22・1/2°	0.380	1.0	0.380
EF ベント'	両受 φ150×11・1/4°	0.340	1.0	0.340
PE挿し口×DIP(K形)異種管継ぎ手	φ150	0.760	1.0	0.760
			計	3.460

②切管

	口径	延長 (m)
水道配水用ポリエチレン管	ブレンエント' φ150	1.050
		0.860
		1.120
		0.700
		2.960
		0.550
		計 7.240

切断 6.0 口

④異形管 (設置工に計上する為、管布設延長に計上しない)

	形状寸法	寸法	数量	延長 (m)
			計	

	延長集計根拠	延長集計	設計計上延長
(1) 布設延長	①+②+③	24.700 m ≒	24.7 m
(2) ポリエチレンスリーブ被覆工	④	m ≒	m

鋼管延長集計

対象図面: 廻配管詳細図 1 (流入管)

1) 鋼管布設延長 (100A)

①直管

	寸法	本数	延長 (m)
SGP-VB	100A		
			計

②切管

	口径	延長 (m)
SGP-VB	100A	0.5
		計 0.5

切断 1.0 口

	延長集計根拠	延長集計	設計計上延長
(1) 布設延長	①+②	0.5 m ≒	0.5 m
(2) ポリエチレンスリーブ被覆工	①+②	0.5 m ≒	0.5 m

水道配水用ポリエチレン管延長集計

対象図面:廻配管詳細図 1 (流出管)

1) 水道配水用ポリエチレン管布設延長(φ150)

①直管

	寸法	本数	延長(m)
水道配水用ポリエチレン管	EF受口付 φ150		
		計	

③異形管(布設延長に計上)

	形状寸法	寸法	数量	延長(m)
EFベント'	両受 φ150×90°	0.660	4.0	2.640
EFベント'	両受 φ150×22・1/2°	0.380	2.0	0.760
EFベント'	両受 φ150×11・1/4°	0.340	1.0	0.340
PE挿し口×DIP(K形)異種管継ぎ手	φ150	0.760	1.0	0.760
			計	4.500

②切管

	口径	延長(m)
水道配水用ポリエチレン管	ブレンエント' φ150	0.480
		1.290
		1.190
		0.820
		4.610
		4.620
		4.200
		1.870
		計 19.080

切断 8.0 口

④異形管(設置工に計上する為、管布設延長に計上しない)

	形状寸法	寸法	数量	延長(m)
			計	

	延長集計根拠	延長集計	設計計上延長
(1) 布設延長	①+②+③	23.580 m ≒	23.6 m
(2) ポリエチレンスリーブ被覆工	④	m ≒	m

鋼管延長集計

対象図面:廻配管詳細図 1 (流出管)

1) 鋼管布設延長(100A)

①直管

	寸法	本数	延長(m)
SGP-VB	100A		
		計	

②切管

	口径	延長(m)
SGP-VB	100A	0.5
		計 0.5

切断 1.0 口

	延長集計根拠	延長集計	設計計上延長
(1) 布設延長	①+②	0.5 m ≒	0.5 m
(2) ポリエチレンスリーブ被覆工	①+②	0.5 m ≒	0.5 m

鋼管延長集計

対象図面: 廻配管詳細図 1 (排水管)

1) 鋼管布設延長(40A)

①直管

	寸法	本数	延長(m)
SGP-VB	40A	1.0	4.0
		計	4.0

②切管

	口径	延長(m)
SGP-VB	40A	1.85
		1.58
		計 3.43

	延長集計根拠	延長集計	設計計上延長
(1) 布設延長	①+②	7.43 m ≒	7.4 m
(2) ホリエチレンスリーブ被覆工	①+②	7.4 m ≒	7.4 m

切断	2.0	口
----	-----	---

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計算式	1箇所当り数量
<p>不断水土工断面1 市道 AS舗装 d=1.2 φ200×φ150</p>	舗装版切断工	AS版 15cm以下	m	$(2.45+3.16+0.85) \times 2$	12.920
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85)$	6.246
	管路掘削		m ³	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85) \times 1.78 - 0.038 \times 3.16$	10.998
	管路埋戻	砂(転圧有)	m ³	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85) \times 0.72 - 0.038 \times 3.16$	4.377
	管路埋戻	良質発生土	m ³	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85) \times 0.96$	5.996
	路盤工	1.8m以上 M-30 t=10cm	m ²	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85)$	6.246
	AS舗装工(機械舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85)$	6.246
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85) \times 0.04$	0.250
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m ³	掘削-埋戻/0.9	4.336
	(本復旧)				
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85)$	6.246
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85) \times 0.04$	0.250
	不陸整正	1.8m以上	m ²	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85)$	6.246
	AS舗装工(機械舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²	$2.45 \times 3.16 - (0.85 \times 0.325 \times 2 + 1.11 \times 0.85)$	6.246
	土留工	H=2.5	m	$2.45+3.16+0.85$	6.460
※ φ200断面積: $0.22^2 \times 3.14 \div 4 = 0.038$					

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計算式	1m当り数量
<p>土工断面1 市道 AS舗装(片切) d=1.2 HPPE φ150</p>	舗装版切断工	AS版 15cm以下	m		1.000
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		1.500
	管路掘削		m ³	$1.50 \times 0.10 + 0.60 \times 1.34$	0.954
	管路埋戻	砂(転圧有)	m ³	$0.60 \times 0.38 - 0.025$	0.203
	管路埋戻	良質発生土	m ³	0.60×0.96	0.576
	路盤工	1.8m未満 M-30 t=10cm	m ²		1.500
	AS舗装工(機械舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		1.500
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	1.50×0.04	0.060
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m ³	掘削-埋戻/0.9	0.314
	(本復旧)				
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		1.500
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	1.50×0.04	0.060
	不陸整正	1.8m未満	m ²		1.500
	AS舗装工(機械舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		1.500
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$ 土断(廻配管)				

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計算式	1m当り数量	
<p>土工断面2 市道 AS舗装(片切) d=1.2 HPPE φ150×2本 並列配管</p>	舗装版切断工	AS版 15cm以下	m		1.000	
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		2.000	
	管路掘削		m ³	$2.00 \times 0.10 + 1.10 \times 1.34$	1.674	
	管路埋戻	砂(転圧有)	m ³	$1.10 \times 0.38 - 0.025 \times 2$	0.368	
	管路埋戻	良質発生土	m ³	1.10×0.96	1.056	
	路盤工	1.8m以上 M-30 t=10cm	m ²		2.000	
	AS舗装工(機械舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		2.000	
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	2.00×0.04	0.080	
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m ³	掘削-埋戻/0.9	0.501	
	(本復旧)					
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		2.000	
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	2.00×0.04	0.080	
	不陸整正	1.8m以上 M-30 t=10cm	m ²		2.000	
	AS舗装工(機械舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		2.000	
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$					

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計算式	1m当り数量	
<p>土工断面3 市道 CO舗装(両切) d=0.60 HPPE φ150×2本 並列配管</p>	舗装版切断工	CO版 15cm以下	m		2.000	
	構造物取壊し	無筋 機械	m ³	1.10×0.10	0.110	
	管路掘削		m ³	1.10×0.78	0.858	
	管路埋戻	砂(転圧有)	m ³	$1.10 \times 0.38 - 0.025 \times 2$	0.368	
	管路埋戻	良質発生土	m ³	1.10×0.36	0.396	
	路盤工	1.8m未満 M-30 t=10cm	m ²		1.100	
	AS舗装工(人力舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		1.100	
	CO殻処理	無筋、L=3.5km	m ³	1.10×0.10	0.110	
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m ³	掘削-埋戻/0.9	0.418	
	(本復旧)					
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		1.100	
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	1.10×0.04	0.044	
	不陸整正	1.8m未満	m ²		1.100	
	AS舗装工(人力舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		1.100	
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$					
	土断(廻配管)					

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計算式	1m当り数量	
<p>土工断面4</p> <p>敷地内 AS舗装 (両切) d=0.60 HPPE φ150×2本 並列配管</p>	舗装版切断工	AS版 15cm以下	m		2.000	
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		1.100	
	管路掘削		m ³	1.10×0.84	0.924	
	管路埋戻	砂(転圧有)	m ³	1.10×0.38-0.025×2	0.368	
	管路埋戻	良質発生土	m ³	1.10×0.36	0.396	
	路盤工	1.8m未満 RC-40 t=14cm	m ²		1.100	
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	1.10×0.04	0.044	
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m ³	掘削-埋戻/0.9	0.484	
	(本復旧)					
	管路掘削		m ³	1.10×0.04	0.044	
	発生土処理	CON殻、L=3.5km	m ³		0.044	
	不陸整正	1.8m未満	m ²		1.100	
	AS舗装工(人力舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		1.100	
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$					

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計算式	1m当り数量	
<p>土工断面5</p> <p>敷地内 AS舗装 (両切) d=0.60 HPPE φ150</p>	舗装版切断工	AS版 15cm以下	m		2.000	
	舗装版直接掘削・積込工	舗装厚10cm以下	m ²		0.600	
	管路掘削		m ³	0.60×0.84	0.504	
	管路埋戻	砂(転圧有)	m ³	0.60×0.38-0.025	0.203	
	管路埋戻	良質発生土	m ³	0.60×0.36	0.216	
	路盤工	1.8m未満 RC-40 t=14cm	m ²		0.600	
	AS殻処理	L=3.5km	m ³	0.60×0.04	0.024	
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m ³	掘削-埋戻/0.9	0.264	
	(本復旧)					
	管路掘削		m ³	0.60×0.04	0.024	
	発生土処理	CON殻、L=3.5km	m ³		0.024	
	不陸整正	1.8m未満	m ²		0.600	
	AS舗装工(人力舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²		0.600	
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$					土断(廻配管)

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計 算 式	1m当り数量	
<p>土工断面6 敷地内 未舗装 d=0.60 HPPE φ150</p>	管路掘削		m3	0.60×0.88	0.528	
	管路埋戻	砂(転圧有)	m3	0.60×0.38-0.025	0.203	
	管路埋戻	良質発生土	m3	0.60×0.50	0.300	
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m3	掘削-埋戻/0.9	0.195	
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$					

算式根拠となる土工断面図	工種	形状寸法	単位	計 算 式	1m当り数量	
<p>土工断面7 場内配管 d=0.6 HPPE φ150</p>	管路掘削		m3	0.60×0.68	0.408	
	管路埋戻	砂(転圧有)	m3	0.60×0.38-0.025	0.203	
	管路埋戻	良質発生土	m3	0.60×0.30	0.180	
	発生土処理	土砂、L=9.0km	m3	掘削-埋戻/0.9	0.208	
	※ φ150断面積: $0.180^2 \times 3.14 \div 4 = 0.025$					土断(廻配管)

数量調書：場内舗装・門フェンス

名称	形状寸法	単位	合計	対 象 図 面	
				付帯工詳細図5～7	
(材料費)					
UNフェンス	H=1.8 A型50シリーズ	m	16.7	W = 2.000 × 7 枚	= 14.000 m
				W = 1.000 × 1 枚	= 1.000 m
				W = 0.600 × 1 枚	= 0.600 m
				W = 0.400 × 2 枚	= 0.800 m
				W = 0.310 × 1 枚	= 0.310 m
					= 16.710 m
UN片開門扉	H=1.8 W=1.2 A型50シリーズ	組	1.0		= 1.0 組
(労務費)				(フェンス基礎A) (フェンス基礎B) (門扉基礎)	
舗装版切断工	AS版 15cm以下	m	6.0	3.000 + + 2.800	= 5.800 m
舗装版破砕	アスファルト舗装版 15cm以下	m ²	0.8	0.360 + + 0.480	= 0.840 m ²
機械床堀	礫交じり土	m ³	2.0	0.435 + 1.008 + 0.716	= 2.159 m ³
機械埋戻	良質発生土	m ³	2.0	0.342 + 0.856 + 0.482	= 1.680 m ³
路盤工	T=100mm RC-40	m ²	0.7	0.360 + + 0.320	= 0.680 m ²
AS舗装工(人力舗設)	再生密粒度 t=40mm	m ²	0.7	0.360 + + 0.320	= 0.680 m ²
AS殻処理		m ³	0.1	0.840 m ² × 0.04	= 0.034 m ³
残土処理	土砂、L=9.0km	m ³	0.3	床堀-埋戻/0.9	= 0.292 m ³
フェンス基礎	200×200×450	個	11.0		= 11.0 個
門扉基礎	400×400×600	個	2.0		= 2.0 個
フェンス組立工	H=1.8	m	16.7		= 16.7 m
片開き門扉組立工	H=1.8 W=1.2	箇所	1.0		= 1.0 箇所
コンクリート舗装工	T=100mm	m ³	1.0	付帯工詳細図5より 12.159 m ² × 0.1	= 1.216 m ³
路盤工	T=100mm RC-40	m ²	12.0	付帯工詳細図5より	= 12.159 m ²
溶接金網工		m ²	12.0	付帯工詳細図5より	= 12.159 m ²
目地工	T=10mm	m ²	1.0	付帯工詳細図5より	= 1.200 m ²

数(場内舗装・門フェンス)

仮設材数量集計表

名称	規格	単位	数量	摘要
【土留工 H=2.5】				
軽量鋼矢板たて込み	掘削深2.0m以下、両側施工	m	6.5	
軽量鋼矢板引き抜き	掘削深2.0m以下、両側施工	m	6.5	
支保工設置・撤去	2段(3.5m以下、軽量金属腹起し材、水圧式ハイブサポート	m	6.5	
支保材基本料・賃料	アルミ腹起し、アルミ水圧サポート	日	2	
軽量鋼矢板賃料	軽量鋼矢板2型、供用日数2日、整備費あり	t	2.3	G=2.327t
仮設材運搬	往復分、～10km	t	3.2	G=3.197t
仮設材積込・積卸	往復分	t	3.2	

仮設材重量

不断水工断面1

(1箇所当り)

軽量鋼矢板	スパン距離(m)×2÷矢板幅(m)×矢板長(m)×単位質量(t/m)		使用数量
Ly=2.5m	II型	3.16×2÷0.25×2.5×0.0148	0.935
Ly=2.5m	II型	1.60×2÷0.25×2.5×0.0148	0.474
Ly=2.5m	II型	0.70×2÷0.25×2.5×0.0148	0.207
Ly=2.5m	II型	0.85×2÷0.25×2.5×0.0148	0.252
Ly=2.5m	II型	0.70×2÷0.25×2.5×0.0148	0.207
Ly=2.5m	II型	0.85×2÷0.25×2.5×0.0148	0.252
計(A)			2.327

軽量鋼矢板	矢板幅	単位質量
I	0.25	0.0129
II	0.25	0.0148
III	0.33	0.0216
V	0.50	0.0336

	単位	1段当り数量	段数	単位重量	使用数量	使用本数
アルミ製腹起し 幅110～120mm 高120～130mm 長2000mm	円/本	10	2	0.0193	0.386	10本×2段=20本
アルミ製腹起し 幅110～120mm 高120～130mm 長4000mm	円/本	2	2	0.0386	0.154	2本×2段=4本
水圧式サポート (410mm) 調整長450～650mm 標準型 (560mm)	円/本	8	2	0.0085	0.136	8本×2段=16本
水圧式サポート 調整長1100～1800mm 標準型 (1310mm)	円/本	2	2	0.0156	0.062	2本×2段=4本
水圧式サポート 調整長2600～3100mm 強力型 (2870mm)	円/本	2	2	0.0330	0.132	2本×2段=4本
計(A)					0.870	
合計(A)+(B)					3.197	

※腹起し材及び切梁材は最低2本とする

1段当り設置数量	(両側)	土留工 H=2.5 W=1600
腹起し材: 3.16 m ÷ 4 m × 2 = 2本		(実務必携より: 腹起し+軽量鋼矢板の両側分の厚さを控除する) 110mm + 35mm = 145mm × 2 = 290mm
調整長1100～1800mm 3.16 m × (2箇所 ÷ 4 m) = 2本		W=1600 - 290 = 1310mm
1段当り設置数量	(両側)	土留工 H=2.5 W=3160
腹起し材: 1.60 m ÷ 2 m × 2 = 2本		(実務必携より: 腹起し+軽量鋼矢板の両側分の厚さを控除する) 110mm + 35mm = 145mm × 2 = 290mm
調整長2600～3100mm 1.60 m × (2箇所 ÷ 2 m) = 2本		W=3160 - 290 = 2870mm
1段当り設置数量	(両側)	土留工 H=2.5 W=850
腹起し材: 0.70 m ÷ 2 m × 2 = 2本		(実務必携より: 腹起し+軽量鋼矢板の両側分の厚さを控除する) 110mm + 35mm = 145mm × 2 = 290mm
調整長450～650mm 0.70 m × (2箇所 ÷ 2 m) = 2本		W=850 - 290 = 560mm
1段当り設置数量	(両側)	土留工 H=2.5 W=700
腹起し材: 0.85 m ÷ 2 m × 2 = 2本		(実務必携より: 腹起し+軽量鋼矢板の両側分の厚さを控除する) 110mm + 35mm = 145mm × 2 = 290mm
調整長450～650mm 0.85 m × (2箇所 ÷ 2 m) = 2本		W=700 - 290 = 410mm
1段当り設置数量	(両側)	土留工 H=2.5 W=850
腹起し材: 0.70 m ÷ 2 m × 2 = 2本		(実務必携より: 腹起し+軽量鋼矢板の両側分の厚さを控除する) 110mm + 35mm = 145mm × 2 = 290mm
調整長450～650mm 0.70 m × (2箇所 ÷ 2 m) = 2本		W=850 - 290 = 560mm
1段当り設置数量	(両側)	土留工 H=2.5 W=700
腹起し材: 0.85 m ÷ 2 m × 2 = 2本		(実務必携より: 腹起し+軽量鋼矢板の両側分の厚さを控除する) 110mm + 35mm = 145mm × 2 = 290mm
調整長450～650mm 0.85 m × (2箇所 ÷ 2 m) = 2本		W=700 - 290 = 410mm

1日当り試験距離・・・実務必携より

口 径	φ 150以下	φ 200～300	φ 400～600	φ 700～800
既設管と連絡せず 給水車で注入する場合	1000m～1500m	500m～1000m	300m～500m	300m以下
既設管と連絡して 給水車が不要の場合	500m～2000m			

備考 4. 通水試験工の1日当り試験距離以下の日数の算出は、次式による。ただし、1日当り試験距離は適用範囲の最小値とする。

※ 通水試験(日) = 通水試験距離(m) / 1日当り試験距離(m)

例) φ 150以下で通水試験延長が560mの場合 $560/1000=0.56$ 日

試験距離	既設管と連絡して給水車が不要: $N=49.3/500=0.097 \div 0.1$ 日
-------------	---